

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1170500480
法人名	株式会社ウェルフェアクリエーション
事業所名	ソレアド新白岡
所在地	〒349-0211 埼玉県南埼玉郡白岡町野牛1228 (電話) 0480-90-5117
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 4人, 非常勤 21人, 常勤換算	17.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,500 円	その他の経費(月額)	15,750円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (157,500円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,575円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	11 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.56 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	優心会クリニック、蓮田病院、本町歯科診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社が運営するグループホームであり、ホーム名称ソレアド(陽のあたる場所)をシンボルマークとして表現し「明るく安らぎのあるホーム」を目標に、平成16年3月に3ユニットで開設された。利用者一人ひとりに合ったケアを工夫し日々の支援にあたっている。また、医療機関との連携もよく、担当医師とも日常的に相談や指導が受けられる体制にある、ターミナルケアにも取り組んでいる。子どもの避難場所として子ども110番の役割も担っており、地域密着型の施設として役割を担った運営がされている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価については、管理者、職員共に把握しており、その後の取り組みについて十分話し合いがされ改善されている。職員全員で評価を日々のケアに反映できるよう努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、外部評価を積極的に活用していこうという姿勢を持っている。また、職員に対して評価の意義やねらいについてわかりやすく伝え、サービスの質の向上に務め、その確認を行ってきている。外部評価の結果を共有し改善に向けて更なる取り組みをしていく方針である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、利用者家族、市担当者、自治会長、民生委員、事業者代表等の参加者によって開催されている。参加メンバーをいろいろな行事に招待し、施設への理解を深めてもらっている。今後とも運営推進会議で話し合ったことを活かしサービスの質の向上に努めていく方針である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者の変化は、内容により電話連絡または家族来訪時に報告している。困難な問題が生じた場合、家族を交えた話し合いを行い検討している。家族等の意見、苦情を言いやすい関係作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所の方とは気軽に挨拶を交わし合っている。また、ホームでの行事の案内を、地域の方にチラシ等でお知らせしたり、子どもの避難所として子ども110番の役割も担うなど、地域との連携を図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく 暖かく 安らぎ」を基本理念として、地域で安心して暮らし続けることを運営方針としている。また、ターミナルケアをホームの独自性として掲げ、その意義について職員全員が理解している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者、家族等の希望を入居時に把握するとともに、管理者、職員は暮らしの中で利用者の思いを汲み取るよう努め、理念を基本としたよりよいサービスの提供に心がけている。また毎日の朝礼にて、職員全員で理念の唱和をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方とは気軽に挨拶を交わしている。また、ホームでの行事について、地域の方にチラシ等で案内を出したり、子どもの避難所として子ども110番の役割も担うなど、地域との連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、外部評価の実施に向けて職員に評価の意義やねらいを伝え、職員と一緒に取り組んでいる。また、サービスの質を確認し合い改善を行っており、今後も、外部評価の結果を共有し、改善に向けて取り組みをしていく方針である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホーム設立と同時に運営推進会議を開催している。会議は、利用者家族、市担当者、自治会長、民生委員、事業者代表等によって構成され、メンバーは、ホームの取り組みの内容や課題などの検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、市内同業者との連携を取りいろいろアドバイスをしてくれている。また、ボランティアの受け入れなど相互に協力できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の健康状態に変化や事故があった場合は速やかに電話連絡するほか、家族の面会時を活用して利用者の様子を報告している。面会の少ない家族には、請求書送付時に本人の暮らしぶりがわかる写真と報告書を郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、内容により直接話し合う機会を作るとともに、家族会等の機会を活用し家族からの意見を聞いている。また、家族、利用者との日帰り旅行では、家族同士で話し合う機会を設けるなど家族の要望や意見を聞くための工夫をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の支援が継続して受けられるよう、ユニット間の職員交替は最小限度にするなどの配慮をしている。また、職員が意見を述べやすい環境を作り、職員の意見を活かすことで、職員の離職防止に努めている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の職員研修計画がある。日々のミーティングのほか月1回の会議で、管理者、職員個々に必要な研修計画を実施している。事業所外での研修の機会を作り、研修後は職員全員で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員共に社内の他のグループホームの職員と交流する機会が多く、日々の活動の悩みなどを話し合いサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時の情報や毎日の会話から両者の気持ちを組み取る工夫をするなど、本人本位のサービスを行うよう配慮している。また、家族とも相談しながら、無理なくホームの生活や他の利用者に馴染んでいけるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と共にいる時間を大事にし、ゆっくり安心して会話ができるよう配慮している。また、日々の暮らしの中では、利用者から生活の技を教えてもらうこともある。行事等では、共に楽しむこと、またお互いに支えあう関係作りに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションを通して、希望や思いを把握している。困難な場合は、個々に家族等に聞き支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意見や思いを把握したうえで、本人本位の具体的な介護計画を作成している。カンファレンスでの内容等を家族とも話し合いプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回の会議や日々のカンファレンスで、計画の変更が必要かどうかの話し合いをしている。変更する場合は、その内容を申し送り簿で知らせたり直接ケアプランに手書きで修正を加えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	納涼祭などの行事は、デイサービス利用者と一緒に 行っている。また、デイサービスの送迎車が空いている 時には、車を借りてドライブ等の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が 得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるよう に支援している	協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、利用者及 び家族の理解を得て月2回の訪問診療を行っている。 また、病状に応じて適切な病院を受診できるよう支援し ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につい て、できるだけ早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	入居時にアンケート調査を行い、利用者家族の意向を 把握している。その後、状況に応じてかかりつけ医と家 族との面談を繰り返し行い、終末期の具体的な暮らし 方を話し合い方針を決めている。なお、方針について は職員全員が共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取り扱いをしていない	職員は、プライバシー確保が必要なことを勉強会等で 学習し、利用者の尊厳を損ねない対応に配慮してい る。また、書類によっては、鍵のかかる書庫で管理して いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を把握し、エステや 和紙を利用したちぎり絵等、個性のある支援に努力 している。また、買い物、散歩など職員が同行して外出 している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、各テーブルで他の利用者や職員と歓談しながら楽しい食事の時間を過ごしている。また、利用者の状況により食事形態を変えている。利用者の中には、職員と一緒に片付けをしている人もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後を入浴時間としているが、事前に個々の希望を聞き取るように努め、一人ひとりがゆっくり入浴できるように支援している。その他身体が汚れた場合なども適切に入浴できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの行事の実施やボランティアの訪問、近所の保育園児の訪問など一人ひとりが楽しめるよう支援している。利用者それぞれの役割、楽しみ事、気晴らしが出来るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、庭、施設前の公園を自由に散策できる。その他買い物や散歩等の支援をしている。また、日帰りの外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やホームの玄関敷地内の出入り口など、昼間は施錠していない。利用者は、自由に庭や施設前の公園で楽しむことが出来束縛しないケアを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設での消防署立ち合いの非難訓練や消火器等の使い方の訓練を年2回実施している。また、防火管理者を中心にして自主点検をしている。		地域の人々の理解と協力が得られるように、非常事態の協力体制などについて日頃から話し合い、地域と連携が図れることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、栄養を考え専門の事業所から仕入れており、食事は、利用者と職員で作っている。利用者個々の状態に合わせて調理方法を工夫し、必要な食事や水分が摂れるように配慮している。また、チェック表により利用者個々の食事摂取量や水分量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは、利用者と職員で一緒に考え作り上げ、居心地よく過ごせるように努めている。また、食堂にはテレビ等が置かれ、個々に自由な時間を過ごす事が出来る。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや家具、カーペット等利用者の使い慣れた物が持ち込まれ、安心して過ごせるように配慮している。また、仏壇が持ち込まれたり、居室は利用者が居心地よく過ごせる雰囲気である。		